

武蔵工業大学後援会誌[マイコム]

MI-COM

no. 37 2008.1

後援会副会長挨拶……p1

平成19年度「大学と父母との連絡会」取材レポート……p2

平成19年度 就職動向と支援……p5

キャンパス Spot⑭……p7

クラブ活動紹介⑳……p9

Campus Topics……p13

平成19年度「大学と父母との連絡会」実施結果……p15

写真：第78回 MI-TECH祭



後援会副会長挨拶

武蔵工業大学生に望むこと



武蔵工業大学後援会副会長

井上 淳

後援会事務局から原稿執筆の依頼を受けましたので、企業の一技術者の私見として、学生の皆さんに望むことを述べさせていただきます。

まず、何はともあれ、学生の本分である勉学に励んで下さい。

1990年前後のいわゆるバブル期には、ほとんどの企業は大量に新卒者を、その成績をあまり重視せずに入社させましたが、バブル崩壊後は一転して極端に募集人数を絞りましたので、大学生は非常に良く勉強するようになりました。その後、バブル崩壊後の企業再構築が進み、ここ数年は欧米、中国を中心とする世界的な経済の好況により企業業績も大きく伸び、募集人員も大幅に増加しています。皆さんは、この好環境に甘えることなく、引き続きしっかり学び、実力をつけて下さい。

次に、強い体力と良好な人間関係を構築する術を身につけて下さい。

社会人になれば、大学で得た専門科目をはじめとする各種知識が豊富で理解度が高いほうが断然有利です。しかしこれだけが社会での成功の鍵ではありません。大学で得た知識やスキルを生かし、成功するためには、健全な精神と体力が不可欠です。更に、事に当たり、積極的に新しい知識、経験を獲得し、謙虚ななか自信を持って行動して、良好な人間関係が築けることが必要です。大学での卒業研究、修士論文の作成、クラブ活動等は、人間関係構築の場でもあり、また、アルバイトもよりシビヤな人間関係を体験する機会であり、大事にして頂きたいと思います。

更に、グローバルな視点で活躍する心構えを持って下さい。

多くの企業が、海外戦略を拡大し、グローバルに活躍できる人材を求めており、幹部昇格の条件に英会話能力を加えてきています。現在は、情報、人、物がグローバルに行き交っており、たとえ国内だけで仕事をしていてもインターネットをはじめとする各種メディアによる海外との情報交換、また、海外からの来訪者に対応する機会は益々増加するでしょう。海外赴任の機会も非常に多くなっています。英会話能力のレベルを上げ、常日頃から国内だけでなく海外の動きにも注目し、グローバルな視野を養ってほしいと思います。

学生時代という二度と経験できない今を大切に、悔いの無い実り多き学生生活を楽しんで下さい。

毎年の夏休み期間、後援会と大学の共催により

実施される「大学と父母との連絡会」。

平成19年度も、全国各地の会場で行われた会に

多数のご父母に出席いただき、

9月29日(土)の世田谷キャンパス(工学部・知識工学部)と

横浜キャンパス(環境情報学部)での

開催をもって幕を閉じました。

父母のみなさんの感想などを交えながら、

その日の模様をレポートします。



※ 榎本英雄後援会長



※ 中村英夫学長



※ 全体説明会(世田谷)

進化・発展する大学の精神を 共有できた貴重なひととき

平成19年度の『大学と父母との連絡会』は、9月1日(土)の
地方会場に始まり、9月29日(土)の東京会場(世田谷キャンパス)
と横浜会場(横浜キャンパス)で幕を閉じました。この会は、
武蔵工業大学の教育・研究の現状や、就職概況などが大学側
から説明されるだけでなく、日頃から気になっている様々な疑問
を直接先生や事務担当者、卒業生から回答してもらえる、その名
の通り双方向の“連絡会”です。とくに、学びの場を体感できる

東京会場には約900名、横浜会場に約300名と、多くのご父母
の皆様がご参加下さいました。

まずは世田谷キャンパスの模様からご紹介いたしましょう。

記録的な猛暑に見舞われた平成19年の夏でしたが、この日は
終日雨交じりの曇り空で、少々肌寒く感じられるほどの天候でした。
午前11時からの受け付けを済ませたご父母の皆様は、午後1時
の『全体説明会』の前に、SAKURA CENTER#14内にある

※ 参加されたご父母の方々の感想

世田谷 キャンパス

※ 五味 正貴君(情報学群1年)のお母さん
クラス担任が親身に相談に乗ってくれ、力強く
感じました。就職に強い大学であることも
今日初めて知りました。



※ 浅見 雄太君(環境エネルギー4年)のお祖母さん
孫に薦められて参りました。大変きれいな
図書館なのでびっくりしています。勉強が
とてもはかどりそうですね。



※ 石塚 智彦君(電気電子1年)のお父さん
大学の様子を知りたくて参加しました。色々な
経験を通して、社会人としての準備をして
もらいたいですね。



※ 松永 圭君(機械1年)のお母さん
建築学科ビルがあまりユニークなので度肝
を抜かれました。こんなキャンパスで過ごせて
うらやましい限りです。



※ 田中 邦悠君(機械1年)のお父さん
もっとクラブ活動が活発になるとよいですね。
課外活動への参加を促すような施策を出して
ほしいと思います。

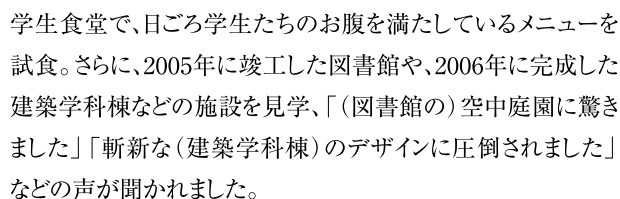


※ 福島 健太君(機械2年)のご両親
就職の状況を詳しく知ることができ、有意義
なひとときとなりました。今後の統合問題には
興味津々です。



※ 高橋 辰弥君(都市基盤4年)のお母さん
学食が値段の割においしかった。図書館も
きれいで、設備面で充実しているところが
好印象ですね。





12時15分からは『課外活動見学』。14号館2階のアリーナで行われたダンス部LAVIの若さ溢れる公開演技に、感嘆の拍手が惜しみなく送られました。

『全体説明会』では、最初に中村英夫学長が、平成19年度に新設された知識工学部、工学部生体医工学科や、平成20年度開設の原子力安全工学科、平成21年度に予定されている東横学園女子短期大学との統合など、進化・発展する大学の状況や理念を紹介。また「老朽化」した建物を順次建て替えて、

新しく立派なキャンパスにしていきたい」とハード面での充実についても触れました。続く片田敏行工学部長は、実験・実習など実践教育を重視する工学部の方針などについて、宮内新知識工学部長は、知識と工学とを融合した武蔵工業大学ならではの独創的な学部の教育方針、進路指導などについて解説。最後に榎本英雄後援会長が、クラブ活動や体育祭等イベントなどに用いられる援助金の使途などについて説明し、大学の発展のためのご父母からの更なる支援を呼びかけました。

午後2時から、『学群・学科・学年別の説明・懇談会』を実施。各学群・学科の方針や現4年生の就職状況などが説明された後、質疑応答の時間が設けられ、生活面でのアドバイスも行われました。その後、希望する方には個別面談が実施され、順次解散となりました。



✿ 昼食は学生食堂で(世田谷)

* 都市工学科の学年別懇談会(世田谷)



★14号館アリーナで行われたダンス部LAVIの公開演技

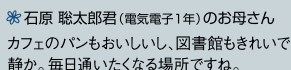


✿ 全体説明会
(横浜)

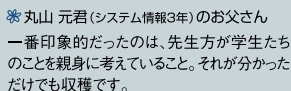


✿ 学科・学年別懇談会。
真剣そのものです(横浜)

※北山 岳秀君(機械学群1年)のお父さん
学科・学年別懇談会で、授業内容や単位
取得の方法などを丁寧に教えてもらい、感謝
しています。



※永田 光君(機械システム3年)のご両親
「学生を社会に出すため教育している」という
学長の言葉に安堵を覚えました。研究のこと
も分かって良かった。



横浜
キャンパス

＊福島 直子さん(環境情報2年)のご両親
就職活動開始の時期が早いことに驚きました。娘がどこまで真剣に考えているか、帰ってじっくり話し合います。



※安川 一樹君(情報メディア1年)のお母さん
緑あふれるエコキャンパスに感動。トイレに
固形石けんが置かれていたのも、環境に
配慮してのことですね。



✿ 仁平 和也君(環境情報1年)のお父さん
学校の顔とも言えるエントランスがきちっと
していて印象が良かった。環境問題への
取り組みを見守りたいですね。





一方の横浜キャンパスでは、午前10時に受け付けを開始。10時30分から『全体説明会』が始まり、中村学長、榎本後援会長、吉崎真司教務委員長、田中章横浜キャンパスキャリア委員会委員長の順に説明に立ちました。学長は、平成21年度の統合に合わせて校名変更を予定していることや、文理融合という特色を強く社会にアピールしていくことなどを強調。榎本後援会長は、配付資料を使って後援会の活動内容を紹介しました。また、吉崎教務委員長は、カリキュラムやコース制、大学院進学について詳しく解説。田中キャリア委員長は、現在の就職状況や、本学で実施されている支援プログラム、就職活動での重要なポイントなどについてお話しされました。

11時40分からは、『自由見学』と『課外活動見学』の時間。



※ 学食では
人気メニューに舌鼓
(横浜)



※ 雨天のため
ISO学生委員会による
説明は建物内での
エコキャンパスツアーに
(横浜)

参加されたご父母の方々の感想

※ 今野 夏希さん(環境情報2年)のお母さん
娘が環境について学んだことを、私たちにも
教えてもらいたい。家庭でも環境問題を
一緒に考えていきたいですね。



※ 横井 直樹君(情報メディア1年)のご両親
単位やコース制の話が印象的でした。卒業
要件も分かりました。息子にはしっかり学んで
もらいたいと思います。



※ 石川 遼君(環境情報4年)のご両親
4回目の参加。今まで本当にお世話になり
ました。環境に対しての真剣な取り組みが
この学科の持ち味ですね。



※ 瀬戸 朋代さん(情報メディア1年)のお父さん
武蔵工業大学は、就職に強いと聞いているが、
過去や現在の就職状況についてしっかり
確認しておきたいです。



昨年に続いて、今年もISO学生委員会の有志が、ソーラーシステムなどエコキャンパスの内容を実際にキャンパスを歩きながら紹介してくれました。学生食堂で人気メニューを試食するなどした後、午後1時から『学科・学年別懇談会』を開始。熱のこもった質疑応答を経て、午後2時頃に散会となりました。

参加されたご父母からは、「直接キャンパスに足を踏み入れ、子どもとの距離が縮まった気がする」「先生方と話をし、日ごろうかがい知れない大学の現状が分かった」などのご意見を頂きました。

本年度、全国の連絡会に参加いただいたご父母の皆様は合計1231世帯。来年はさらに多くの皆様に参加されることを希望しています。

大学会場以外にも全国21会場で実施

東京・横浜地区以外にも、全国21会場で「大学と父母との連絡会」が開催されました。ここでは長野会場の様子をお伝えします。

※長野会場

ご父母の方々との信頼関係を再確認

横浜事務室 学生・就職センター係長 水上 恵子

長野での「大学と父母との連絡会」は、平成19年9月1日(土)「ホテルJALシティ長野」にて開催されました。残暑厳しい中、13世帯17名のご父母の方々にご出席いただきました。プログラムは10時から約2時間の内容で行われましたが、早めに会場にお越しいただき、お子さんの通う大学への関心、期待感が感じられました。



まず大学の全般概況説明からはじまり、学修、キャンパスライフ、就職、大学院等の説明をプロジェクターで投影した写真や資料をもとに行いました。

少しずつなごやかな雰囲気になる中、後半はまず同窓会組織である武蔵工業会長野支部の竹内様から県内の就職状況など興味深い情報をいただきました。また本学OBの方々が活躍なさっている様子もうかがうことができ、強く感じられた方も多いかと思います。

その後の質疑応答では「校名変更について」「8月末にご自宅に郵送された成績通知書の内容について」「研究室配属の決め方」「国家試験と大学の定期試験との時期的な問題」等々の活発なご意見やご質問が出されました。そして閉会後にはご希望の方のみ個人面談をさせていただきました。



長野にうかがって直接ご父母の方々とお会いできたことにより、大学とご父母との信頼関係が再確認でき、また今後ご父母の方々と連携の必要性を感じた会となりました。

平成19年度の就職動向と支援

企業の採用活動のキーワードは「早期化」「厳選化」

そのような採用環境の下、本学の就職希望者における
内定率は、きめ細かい就職指導・支援（右頁 就職・進学活動
スケジュール参照）やOB・OGリクレーターによる積極的な
採用サポートによって、学生個々の就職に対する意識が
向上したこともあり、それぞれ工学部91.0%、大学院工学
研究科93.6%、環境情報学部83.3%、大学院環境情報
学研究科89.3%という好結果を収めることができ、文部
科学・厚生労働両省の調査（平成19年10月1日現在）69.2
%を大きく上回る結果となっています。

● 平成19年度求人就職内定状況(平成19年12月1日現在)

	項目 学科・専攻	就職希望者	内定者	内定率(%)	進学希望者
工 学 部	機械工学科	86	85	98.8	26
	機械システム工学科	69	63	91.3	31
	電気電子情報工学科	71	65	91.5	40
	電子通信工学科	72	68	94.4	29
	コンピュータ・メディア工学科	79	67	84.8	21
	建築学科	76	59	77.6	39
	都市基盤工学科	85	83	97.6	11
	システム情報工学科	65	60	92.3	42
	環境エネルギー工学科	40	35	87.5	30
	小 計	643	585	91.0	269
大学院 工学研究科	機械工学専攻	19	18	94.7	0
	機械システム工学専攻	26	25	96.2	2
	電気工学専攻	81	80	98.8	2
	建築学専攻	29	18	62.1	0
	都市基盤工学科	21	21	100.0	0
	システム情報工学専攻	23	23	100.0	0
	エネルギー量子工学専攻	21	21	100.0	1
	小 計	220	206	93.6	5
	合 計	863	791	91.7	274
環境情報学部	環境情報学科	184	152	82.6	13
	情報メディア学科	188	158	84.0	16
	小 計	372	310	83.3	29
大学院 環境情報学研究科	環境情報学専攻	28	25	89.3	1
	合 計	400	335	83.8	30

● 平成19年度就職内定先企業等／資本金順上位50社(平成19年12月1日現在)※数値は就職内定者数

工学部・大学院工学研究科			環境情報学部・大学院環境情報学研究科		
東京電力……………2	マツダ……………1	日野自動車……………2	三井住友銀行……………1	キャノ・マーケティング・ジャパン…1	パスコ……………1
日産自動車……………7	ブリヂストン……………1	村田製作所……………2	三菱東京UFJ銀行……………1	日本通運……………1	NECソフト……………1
ソニー……………3	スズキ……………8	沖電気工業……………4	NEC……………3	セコム……………8	ヤフー……………1
トヨタ自動車……………2	京セラ……………2	小松製作所……………1	日立製作所……………6	セブン・イレブン・ジャパン……………2	日本旅行……………1
NEC……………5	フジテレビジョン……………1	日本精工……………7	松下電器産業……………1	富士フイルム……………1	JTB首都圏……………1
NTT東日本……………2	大日本印刷……………1	東京地下鉄……………1	JR東日本……………4	横浜ゴム……………1	インテリジェンス……………1
富士通……………3	大成建設……………7	大林組……………4	イオン……………3	三越……………1	オオバ……………1
日立製作所……………6	JR東海……………5	セイコーエプソン……………3	積水ハウス……………1	TOTO……………1	みずほ情報総研……………1
東芝……………9	大和ハウス工業……………2	パイオニア……………7	三菱電機……………2	日立ソフトウェアエンジニアリング…4	環境管理センター……………1
三菱重工業……………1	東京急行電鉄……………1	ヤマハ発動機……………4	ソフトバンク通信3社……………5	住友林業……………3	日建設計……………1
神戸製鋼所……………1	出光興産……………1	オリンパス……………1	NTTデータ……………3	岩谷産業……………2	バイオニアデザイン……………1
シャープ……………2	凸版印刷……………3	いすゞ自動車……………5	東京急行電鉄……………1	東急建設……………1	(財)日本品質保証機構……………1
JR東日本……………6	日本たばこ産業……………1	TOTO……………4	スズキ……………3	クニナップ……………1	(財)日本自動車研究所……………1
三菱電機……………4	全日本空輸……………1	東京都庁……………1	ジュビターテレコム……………1	NECネットエスアイ……………1	東京国税局……………1
キャノン……………7	本田技研工業……………9	新宿区役所……………1	大日本印刷……………1	ジェーシービー……………1	川崎市役所……………1
富士重工業……………4	鹿島建設……………6	横浜市役所……………3	JR東海……………1	山武……………2	町田市役所……………1
NTTデータ……………3	清水建設……………5		凸版印刷……………3	YKK AP……………1	



就職・進学活動スケジュール

●工学部・知識工学部

全学年対象

- 7月、11月 ●公務員ガイダンスおよび講座説明
9月、12月 ●公務員試験受験対策講座
11～6月 ●公務員試験模試
8～9月 ○基本情報技術者資格取得対策講座

1・2年生（進路・勉強方法を考える）

- 4月 ○△▲自己発見レポート（1年生）
○△▲自己プログレスレポート（2年生）
○△▲自己発見レポート
フォローガイダンス
○△▲自己プログレス
フォローガイダンス
6月 ○△▲ブレ就職講演会
8月 ○インターンシップ等に積極的に参加

自己の適性に基
づいて家庭で協
議

3年生（進路についてより具体的に考える）

- 4月 △進学予定者対象の進学説明会
△図書館などで大学院の各専攻内容や
入試問題等を検討
6月 ○リクルート就職講演会
▲他大学または留学先より資料を取り寄せ
情報収集活動開始
○各学科就職ガイダンス（第1回）
○職業適性検査
7月 ●公務員説明会
8月 ○インターンシップ等に積極的に参加
9月 ○各学科就職ガイダンス（第2回）
●公務員試験対策集中講座
10月 ○Uターン就職ガイダンス
○就職講演会（就職活動全般）
○ // （自己分析）
○ // （業界研究）
○ // （エントリーシート・論文文）
○就職試験対策（SPI・論文・GAB・CAB）（1月まで）
○自己分析・エントリーシート対策
○学内業界研究会
11月 ○公開模擬面接
●公務員説明会
●公務員試験模試（6月まで）
○卒業生による業界研究会
○学内業界研究会
12月 ○業界・企業研究、エントリー
●公務員試験対策集中講座
○学内業界研究会
○就職試験対策（模擬面接3月まで）
1月 ○各学科就職ガイダンス（第3回）
2月 ○学内企業研究会
●国家公務員採用試験申込書入手

4年生（就職・進学活動の本番です）

- 4月 ○各学科就職ガイダンス（第4回）
○学内での希望調査及び推薦者決定
△進学予定者対象の進学説明会
▲指導教授と相談の上、進学先の検討
●国家公務員採用試験申込書提出
●地方公務員採用試験申込書入手
4～6月 ○採用試験（3月から開始の企業あり）
○採用内々定
●地方公務員採用試験申込書提出
●国家公務員採用試験（1次）
●国家公務員採用試験（2次）
●官庁訪問（国家公務員）
●地方公務員採用試験（1次）
5月 △大学院入学試験（A日程）募集要項入手・願書提出
6月 △大学院入学試験（A日程）
7月 ●採用内定（国家公務員）
7～8月 ●地方公務員採用試験（2次）
8月 △▲大学院入学試験（B日程）学生募集要項入手・願書提出
●地方公務員採用試験合格発表
（翌年1月頃までに内定）
9月 △▲大学院入学試験（B日程）
10月 ○採用内定
○学内での採用内定報告手続
1月 △▲大学院入学試験（C日程）学生募集要項入手・願書提出
2月 △▲大学院入学試験（C日程）
3月 卒業式

●環境情報学部

全学年対象

- 5～12月 課外英会話講座（40分/日・年間100回）
8月 ○初級シスアド集中講座（5日間）
9月 ○SPI対策講座（2日間）
○公務員・SPI対策講座（11日間）

1・2年生（進路・勉強方法を考える）

- 4月 ○△▲自己発見レポート（1年生）
○△▲自己プログレスレポート（2年生）
5月 ○△▲自己発見レポートフォロー
ガイダンス（1年生）
○△▲自己プログレスフォロー
ガイダンス（2年生）
6月 ○△▲自己分析相談会
○△▲インターンシップ対策講座
8月 ○△▲インターンシップ等に
積極的に参加
10月 ○△▲就職講演会

自己の適性に基
づいて家庭で協
議

3年生（進路についてより具体的に考える）

- 4月 △▲大学院の各専攻内容や入試問題等を検討
○△▲就職ガイダンス①
5月 ○就活オープンングセミナー①
○職業適性検査
○マナー講座・基礎編
○就活オープンングセミナー②
○自己分析セミナー
○エントリーシート対策セミナー
6月 ○△▲自己分析相談会
○就活支援サイト活用セミナー
○企業研究セミナー
○インターンシップガイダンス
○インターンシップ選考対策講座
○職種研究セミナー
○就職ガイダンス②
6月～7月 ○前期業界研究会（全6回・各業界代表的企業を招聘）
7月 ○就職ガイダンス③
キャリアアプローチ
○内定者座談会
8月 ○△▲インターンシップ等に積極的に参加
○夏休み就活勉強会
9月 ○就職ガイダンス④
○文章力強化講座（全5回）
9～10月 ○△▲進路希望面談（全員対象）
10月 ○リクナビオープンセミナー
10～11月 ○後期業界研究会（全9回・各業界代表的企業を招聘）
11月 ○志望動機完成セミナー
○就職ガイダンス⑤
○新卒採用模試
12月 ○面接対策セミナー
○マナー講座・実践編
○GD対策セミナー&演習
○GD対策セミナー&演習
○新卒採用模試・解説講座
1月 ○就職準備活動総括セミナー
○企業研究会&学校推薦ガイダンス
1～2月 ○模擬面接&GD講座（全6回）
2月 ○横浜キャンパス企業研究会
（全4日間・代表的企業約150社を招聘）
●国家公務員採用試験申込書入手
○世田谷キャンパス企業研究会
（全6日間・代表的企業約120社を招聘）

4年生（就職・進学活動の本番です）

- 4月 ○就職ガイダンス（求人状況・活動心得等）
○学内での希望調査及び推薦者決定
▲指導教授と相談の上、進学先の検討
●国家公務員採用試験申込書提出
●地方公務員採用試験申込書入手
2～5月 ○採用試験（年内から開始の企業あり）
○採用内々定
●地方公務員採用試験申込書提出
5月 就職ガイダンス（活動アドバイス）
学内企業研究会②
△推薦入学（A日程）募集要項入手・願書提出
●国家公務員採用試験（1次）
6月 △推薦入学試験（A日程）
●国家公務員採用試験（2次）
●官庁訪問（国家公務員）
●地方公務員採用試験（1次）
7月 ●採用内定（国家公務員）
7～8月 ●地方公務員採用試験（2次）
8月 △▲第1次試験（B日程）学生募集要項入手・願書提出
●地方公務員採用試験合格発表
（翌年1月頃までに内定）
9月 △▲第1次入学試験（B日程）
10月 ○採用内定
○学内での採用内定報告手続
1月 △▲第2次試験（C日程）学生募集要項入手・願書提出
2月 △▲第2次入学試験（C日程）
3月 卒業式

○就職希望者（○民間企業希望者、●公務員希望者）、△本学大学院進学希望者、▲他大学大学院進学希望者（留学含む）

2006年8月4日、新建築学科棟（4号館）が誕生しました。建築学科ではこれまで旧2号館を使用していましたが、老朽化が進んだため、旧図書館のあった場所に新しい棟を建設することになったのです。竣工成った4号館は、ご覧の通りスタイリッシュな外観（鉄筋コンクリート造一部鉄骨造の地上4階建て。延べ床面積4816.31㎡）。エントランスを入ると、1～2階までが吹き抜けとなった開放的な空間が広がっています。2階には他に事務室や学生中心で利用する研究室を配置。3階に教員研究室やゼミコーナー、4階も学生向けの研究室が備えられています。“室”といっても、そこは棚だけで仕切られたオープンなスペース。学生間、教員間、学生と教員とが自然に触れ合いながら、日々建築の技を磨いているのです。今回は機能的で独創的、創造力を刺激してくれる建築学科棟を、読者の皆様にご紹介いたしましょう。



1階エントランスを入ると、びっくりするほど巨大でオープンなスペース。一応は「製図室」ということですが、可動パネルを使って色々な展示を行ったり、授業やプレゼンテーション、イベント、講演会などに活用できる多目的空間です。ただいまプロジェクターと巨大スクリーンを用いて、学生たちがプレゼンテーションの真っ最中。たくさんの人の前で自分の意見を発表していると、自然とコミュニケーションの力が養えそうです。

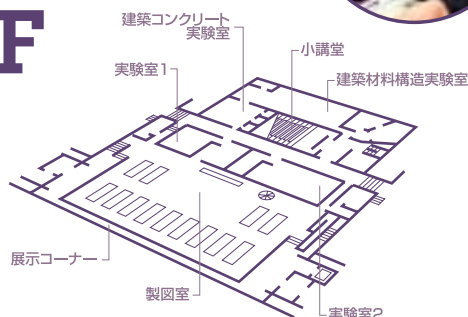
これも1階の製図室。パーティーで仕切られているものの、きわめて風通しの良い雰囲気の中で授業は進められます。学生たちが作ってきた集合住宅の模型を手に、建築界の気鋭として知られる手塚貴晴准教授がエネルギーに学生を指導。写真左奥のスペースは、外からも見える「展示コーナー」。ここにも学生による模型が所狭しと並べられています。



「旧2号館と比べて、格段に開放感がありシームレスなこの建物では、1年生から4年生、大学院生、そして教員までが一体となって学習、研究に取り組める。学生の作る作品も以前よりずっとパワフルになりました。空間のエネルギーをもらっているようですね（手塚貴晴准教授）」。



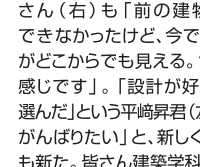
1F



この建物を設計監理された岩崎堅一教授。「グラウンドギャラリーと呼ばれる製図室や、開放的な研究室は、自然なコミュニケーションの場。専門分野や学年を超えた交流が生まれているように思います」



中山寧（しずか）さん（左上）は、この4号館に入ってから「すごく勉強に集中できるようになりました」とご満悦の様子。大原



さん（右）も「前の建物は狭くて立ち話もできなかったけど、今では先輩後輩同期の姿がどこからでも見える。つながりがいい、って感じです」。「設計が好きだからこの学科を選んだ」という平嶋昇君（左下）は「夢に向かってがんばりたい」と、新しくなった学科棟で決意も新た。皆さん建築学科2年生です。

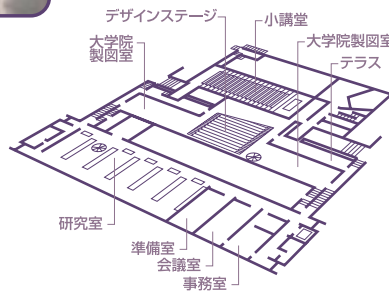
1階のトイレには男子用、女子用ともにシャワールームが併設されています。「体育館でもないのに、なぜ?」。なぜなら、工学部の学生は勉強、研究で忙しく、研究室に泊まり込むこと多々あり。汗を流してさっぱりしたい。そんな気持ちに応えてくれるありがたい設備なのです。



2階から4階まではこの螺旋階段でつながっています。風通しの良い環境を実現するための、素敵なお螺旋階段です。



工学部建築学科事務室の黒木留見子係長。卒業生などが見学する際の案内役もしてくださいます。2階の事務室で、いつも笑顔でお出迎え。就職や進路の相談にも乗ってくれる、学生たちの良きアドバイザーでもあります。



吹き抜けとなっている2階部分には、中央部に階段を備える『デザインステージ』、その両脇に『大学院製図室』、階段の裏には『大学院ゼミコーナー』が配置されています。ここも使用目的が限定されているわけではなく、授業やディスカッションなど色々な用途に活用されています。また、ここまでは、他学部・他学科の学生も自由に入出入りすることが可能。気持ちのいい『空中庭園』へもつながっています。

2F

新建築学科棟の設計・監理を担当した岩崎堅一教授の研究室に所属する皆さん。左から、永橋智子さん(建築4年)、大淵雄一郎君(同修士2年)、田内保吉君(同修士1年)、山川裕人君(同4年)。「ここは壁が無く、棚で仕切られているだけなので、他の研究室の人たちと活発に交流できます(大淵君)」。



研究発表や大学院生の授業などに用いられる予約制の『ゼミコーナー』。大きなウィンドウから1・2階のオープンスペースを見下ろすことができます。現在、4年生の面々が著名な建築家の作品を熱心に論評中。ちなみに彼らが腰掛けている椅子は、革張り舶来の高級品。学生の頃から“良いモノ”に接することで、審美眼が自然に養われます。



建築学科は、建築計画・設計系と、建築構造系、建築材料工法系、建築環境設備系の4つの系統に分かれています。2階部分には、建築計画・設計系の『研究室』が並んでいます。セキュリティを考慮して、ここからはIDカードを持っている3年生以上の学生、教職員しか入室できない仕組みです。

3F

3階は『教員研究室』。廊下側をガラス張りにして、開放感を高めています。



3階に並ぶ『教員研究室』の中に入ると、大きな窓から屋上緑化や町並みを見渡すことができます。近藤靖史教授の専門は、快適で健康的な室内の温熱・空気環境の研究。「この建物は空気の流れを考慮して設計されています。例えば、気候の良いときには研究室の窓を開けると自然換気ができ、研究室の扉の上の欄間から室内の空気がスムーズに廊下に出て行きます。また、断熱性の高い窓ガラスが採用され、1階製図室や4階研究室の空調システムにも工夫がなされています。」

地震に強い建造物などを研究している濱本卓司教授の研究室。左から修士2年の渡部卓也君、濱本先生、韓国からの留学生チェ・ジョンギョさん、同じくタジキスタンからの留学生ラフモノ・スフロブショさん。「地震の多いタジキスタンに安全な建物を造ってほしい」とスフロブショさんが言えば、「進んでいる日本の技術・研究を自国の安全に生かしたい」とチェさん。2人とも新しい学科棟を「素晴らしい!!」と大絶賛です。



修士2年の辻村典子さんは、3階奥の『ゼミコーナー』で、自学自習中。「設計事務所に内定しました。即戦力になれるよう、最後まで気を抜かずがんばりたい。時間帯によってとても静かなので、勉強がはかどります」とのこと。ここは他にも産官学共同研究の打ち合わせなどにも用いられます。



4F

4階も学生主体の『研究室』。建築構造系、建築材料工法系、建築環境設備系の3系統の研究室が軒を並べています。3階の『教員研究室』を、学生たちが2階と4階で挟み込む“サンディッチ構造”とされたのは、教員と学生との行き来がスムーズとなるよう配慮されたためなのです。

世田谷キャンパスを美しい照明で彩るイベント、“キャンパスイルミネーション”で知られる小林茂雄准教授の研究室に所属する皆さん。左手前から時計回りに谷内健太郎君、山根拓馬君、橋本秀和君、平野翔太君、井上理佳子さん(全員4年)。「落ち着いた照明を備える4階ゼミコーナーは癒しの空間(橋本君)」だそうです。



これが小林研究室おすすめの『ゼミコーナー』。どこか和のテイストを醸すデザイン、そして間接照明による暖かみのある照明が、学習や研究で疲れた学生をさりげなく癒してくれるそうです。なお、同じ階の反対側には、背の高いテーブルを置いた同様のスペースがあります。



2007年度最高峰のステージで熱戦を繰り広げた「アメリカンフットボール部」と、
横浜キャンパスの学生団体を取りまとめる「学生団体連合会横浜分室」。
今回はまったく特色の異なる2つの団体をご紹介します。

悲願のI部リーグ昇格！ 2007年度学生アメフト界日本最高峰の舞台で戦った

アメリカンフットボール部



顧問：白木尚人（機械工学科准教授）
学生責任者：光武和也（機械システム工学科4年）
部員数：77名（うち女子マネージャー17名）

主な活動

4月 花見／春季オープン戦
5月 春季オープン戦
6月 春季オープン戦
7月 新入生歓迎コンパ
8月 夏合宿（山中湖）
9月 秋季リーグ戦
10月 秋季リーグ戦
11月 秋季リーグ戦
12月 納会／OFF
1月 追い出しコンパ／OFF
2月 OFF／トレーニング開始
3月 春季練習開始



📌 苛酷な夏合宿が終了。
秋のシーズンに向けて
がんばるぞ！

📌 学業優先を貫きながら、 最高峰のステージに進出！

2006年12月10日、武蔵工業大学体育会の歴史に、またひとつ偉業が刻まれました。我らのアメリカンフットボール部ヘリオスが、神奈川大学と争われた関東学生アメリカンフットボール連盟I部II部入替戦を15対7で制して、I部リーグ入りを決めたのです。同リーグのI部といえば、学生アメフト界の頂点を狙う強豪がひしめく最高峰の舞台。部活に入って一番嬉しかったことと問われた光武和也主将（機械システム4年）ははじめ部員全員が「もちろん、I部に上がったこと!」と即答するのも当然でした。

武蔵工業大学アメリカンフットボール部は、1974年、同好会としてスタート。同時期に設立されたアメフト愛好会との統合を経て、75年から本格的な活動を開始しています。78年、関東学生アメリカンフットボール連盟に加盟申請。80年には同好会から部へと昇格し、翌年、早くもII部リーグ入りを果たしています。2005年秋のシーズンでもI部II部入替戦に駒を進めますが、そのときは関東学院大学に僅差で破れ、惜しくもI部昇格を逃しました。そして、今回の悲願達成！ そのチーム名、『ヘリオス』はギリシア神話の太陽神に由来するものですが、まさしく太陽のように眩しく

輝かしい快挙を果たしてくれたのです。

快挙と言えば、他のI部チームのプレーヤーは、そのほとんどが高校時代からアメフトの花形選手。これに対して、「ぼくたちは9割が初心者で、スポーツ未経験者も少なくありません（光武主将）」。「体の大きさからして違いますし、多くはアメフト漬けの学生生活を送っているようです（副将の渡部陽之輔君・建築4年）」。優秀なコーチを雇ったり、グラウンドその他の設備面で格段に充実しているチームもある中、ヘリオスはOBがボランティアで監督・コーチを買って出て、運営はすべて学生中心。もちろん授業優先、学業優先を貫き通しており、だからこそその勝利、活躍が、より輝かしく、尊いものとなっているのです。

強さの秘密は、「部員全員が心をひとつにして勝ちを目指していること（光武主将）」。そして、「ディフェンスがしっかり守って、いいポジションでオフェンスに引き継ぎ、タッチダウンに結びつける。つまり、頭を使ったプレーをしているところ（遠藤良太君・電子通信3年）」だといいます。



マネージャーは、プレーヤーの奮闘を陰で支える縁の下での力持ち

2007年秋のシーズンの初戦の相手は、強豪早稲田。残念ながら7対7で敗北



横浜国立戦、45対35で勝利!!



注目されているからこそ、奢ることなくみんなの模範に!

練習は、火曜日から土曜日までの週6日。4月から始まる春季オープン戦、山中湖畔での夏合宿を経て、本番である秋季リーグ戦は9月から始まります。関東学生アメリカンフットボール連盟I部リーグは、A、B2つのブロックに分かれていますが、ヘリオスは、法政、早稲田、日体、一橋、専修、横浜国立、帝京大と同じAブロックに所属、いずれ劣らぬ猛者揃いです。ヘリオスにとっての目標は、「I部残留(光武主将)」に尽きます。

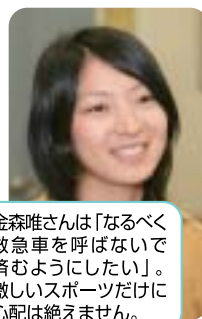
その目標を実現するために努力しているのは、プレーヤーだけではなく。顧問の先生、監督、コーチ陣、応援してくれる人たち、そして「何よりマネージャーの力は大きいですね(渡部副将)」。肉弾相打つ苛酷なスポーツだけに、小さなケガは日常茶飯事。練習や合宿、試合で、そんなプレーヤーたちを陰で支え、健康管理を担ってくれるマネージャーは17名。リーダーであり、医務を担当する金森唯さん(情報メディア4年)は、「最高のコンディションでグラウンドに立ってもらいたい」と、いつも選手たちへの気配りを忘れません。彼女たちの存在が、チーム躍進の原動力となっていることは間違いのないようです。

I部リーグのチームは、インターネットのサイトで瞬時にその活躍ぶりが紹介されるなど、一挙手一投足が注目的。「だからこそ、決して奢ることなく、みんなの模範となれるよう学業や生活面でも気を引き締めていきます」と、光武主将は最後に語ってくれました。太陽のように明るく爽やかなアメフト部の面々。その存在は、勝敗を超えて、私たちに勇気と誇りを与えてくれるのです。

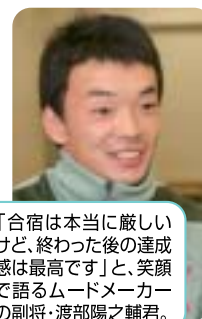
2007年度のI部リーグでは予想通り厳しい戦いを強いられ、8チーム中7位との結果に。I部II部入替戦でも惜敗し、残念ながらII部降格となりましたが、来季のI部復帰を目指して懸命の努力を続けるヘリオスに、これからも応援をよろしくお願いします。



主将の光武和也君のポジションはランニングバック。小柄ながら、そのスピードと判断力に定評があります。



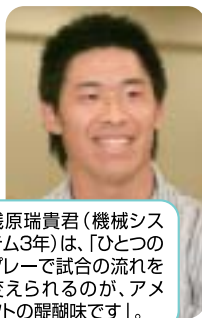
金森唯さんは「なるべく救急車を呼ばないで済むようにしたい」。激しいスポーツだけに心配は絶えません。



「合宿は本当に厳しいけど、終わった後の達成感は最高です」と、笑顔で語るムードメーカーの副将・渡部陽之輔君。



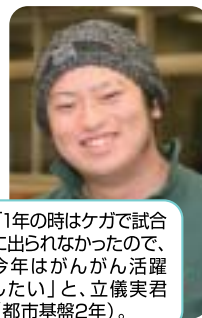
遠藤良太君は、「部員がみんな家族のように仲が良く、しっかりとまとまっているところがヘリオス最高の魅力ですね」。



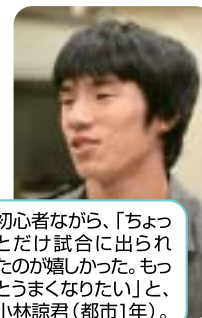
浅原瑞貴君(機械システム3年)は、「ひとつのプレーで試合の流れを変えられるのが、アメフトの醍醐味です」。



「コンタクトの多いスポーツなので、きめ細かくサポートすることが大切です」と、松島歩惟さん(建築3年)。



「1年の時はケガで試合に出られなかったのですが、今年はがんがん活躍したい」と、立儀実君(都市基盤2年)。



初心者ながら、「ちょっとだけ試合に出られたのが嬉しかった。もっとうまくになりたい」と、小林諒君(都市1年)。

アメリカンフットボール部のI部リーグ戦績は<http://www.heliosfootball.com/result.html?BD=15&CH=5>をご覧ください。



第78回 MI-TECH祭レポート

★第78回MI-TECH祭を終えて

第78回MI-TECH祭実行委員会 委員長 崎枝 健(機械システム工学科3年)

2007年11月23日から25日までの3日間に渡って第78回MI-TECH祭が行われました。全日程が無事に終了できましたのは、関係者各位の力強いご支援によるものと、平成19年度M.F.A.会長として、また第78回MI-TECH祭実行委員長として、まずは心から御礼、感謝申し上げます。

今年の開催コンセプトは「緑」。これに基づいて、M.F.A.はじめ実行委員会のメンバーは約1年前から学園祭に向けて準備を進めてきました。ところが、「緑」というつかみ所のない大きなテーマを掲げたものの、それを実際の企画にどう反映し実行していくか、試行錯誤の毎日でした。こうした中、参加団体への説明会、近隣住民への広報をしていくうちに、さまざまな出会い(緑)を体験し、なんとかMI-TECH祭の道筋が築いていけるようになっていきました。新しいイベントとして吉田滋氏の講演会やガリレオ工房のサイエンスショーなどを企画しましたが、どちらも多くの参加者に恵まれまし、とくにサイエンスショーでは立ち見も出るなど、予想を上回る盛況となりました。恒例の行事である

メインステージ企画・ストリートパフォーマーによる大道芸などもたくさんのお客様に楽しんでいただけたかと思います。また今回は多くの研究室が参加してくださり、たんに楽しむだけではなく、学術面のアピールという意味でも充実したものとなったのではないかと思います。進行・管理の面でも大きな事故等はありませんでしたし、ポストカードといった新しい試みを行い、パンフレットと一緒に来場者の皆様にわかりやすい広報を心がけるなど、一定の評価を得られたのではないかと考えます。

難しいテーマのもとで今年の第78回MI-TECH祭をまがりなりにも成功に導くことができたのは、この一年で出会った、実行委員のメンバー、学校関係者、教職員、他大学や近隣住民の皆様方、そして当日武蔵工業大学に足を運んでくださった来場者との貴重な縁があったからだと思います。今年のMI-TECH祭は終わってしまいましたが、来年も再来年もその次の年も毎年毎年この時期にMI-TECH祭があります。いつの日かまた、MI-TECH祭で皆様と出会えることを楽しみにしています。





バッテリーカーコンテストレポート

☆「夢をかたちに」中・高生によるバッテリーカーコンテスト2007

バッテリーカーコンテスト2007実行委員 秋元 聡(機械工学科 技士)

2007年8月25日に「バッテリーカーコンテスト2007」を茨城県つくば市の独立行政法人産業技術総合研究所のご協力で行回路を使用して開催し、27台が努力の成果を競い合いました。

理科離れが話題となる昨今、中・高生に「創意工夫に基づいたものづくり」の場を提供し、さらに「環境とエネルギー」にも関心を持ってもらおうとの思いで開催し、今回で通算9回目の開催です。1998年から2000年までの3回は機械系の教職員有志で「手作りEVレース」を開催し、2002年からは本学創立75周年記念事業の一環として正式に本学主催になり、その後も継続事業として認められ今回に至ります。

大会側で支給するバッテリー(原付用の12Vバッテリー2個)で自走する3輪以上の手作り電気自動車で、1周3200mの平坦なコースを2時間で何周するかを競い合います。市販の自動車と異なり、ちょっとした工夫や調整の違いで走行性能に差が出ます。他の類似大会と異なり、途中で1回以上のドライバー交代を規則で定めているので、その気になればチーム全員がドライバーとして参加することも可能になっています。

会場が広大なため当日は多数のスタッフが必要となります。毎回多数の学生や経験のある卒業生に手伝ってもらい、今回も約70名の学生が早朝より会場設営、車検やコースマーシャル、会場正門の入退構受付や場内放送など残暑が厳しい中を担ってもらいました。

イベント運営では、参加者に向けて「何をすべきか」を進行の様子を見ながら各個が判断して行動しなければならず、不慣れな

学生の中には戸惑った者もいたようですが、良い経験が出来たとの感想を語ってくれた学生もいました。

今後も参加者だけでなく運営側の学生にも何かを得られるような大会運営を目指したいと思います。



事務局便り

世田谷キャンパス副学生部長 丸泉琢也

2007年4月より世田谷キャンパス担当の副学生部長に就任し、後援会の事務局をお手伝いさせていただいております。まずは、会員皆様の平素よりの後援会活動へのご理解、ご支援のほど御礼申し上げます。

さて、学生部では、皆様のご子息、ご令嬢が楽しく、有意義な学生生活を満喫できるように、課外活動、生活指導、福利厚生、カウンセリングといった面で、担当教員が学生課と緊密な連携を取り、日々改善に努力しております。

ここ数年来、ゆとり教育による全般的な学力低下や、周りとのコミュニケーションを円滑にとり、直面した困難を克服してゆく人間力が不足している事などが、学生資質の変化としてよく指摘されております。また、新学部、新学科の設立など学生を取り巻く大学環境の変化も大きく、これまでの画一的な指導では十分に対応できない状況となっており、学生部としても、これらの変化に即応した目細かい指導が進められる仕掛け作りを進めたいと考えております。また、微力ですが、後援会事務局の一員として、後援会活動に貢献できればと思っておりますので、今後とも引き続き、皆様のご理解、ご支援のほどお願い申し上げます。

◎課外活動短評

- ラグビー部 —— 全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会予選において優勝し、全国地区対抗大会への13年連続18回目の出場権を獲得した。
- 陸上競技部 —— 第7回八大学陸上競技大会で浅見友紀君(都市基盤工学科2年)が800m走で1分59秒24で2位入賞を果たした。
- ソフトテニス部 —— 関東学生秋季リーグ戦において6部優勝、5部に昇格を果たした。また、藤井祥吾君(都市基盤工学科3年)・稲沢優太君(都市基盤工学科2年)ペアとシングルで菊地学君(環境情報学科4年)が全勝賞を獲得した。
- バレーボール部 —— 平成19年度秋季関東大学男子第9部バレーボールリーグ戦において優勝し、8部昇格を果たした。
- 天文研究部 —— 第78回MI-TECH祭活動・結果発表部門において制作、発表ともに優れており、学生部長賞を獲得した。

✿◆◆ 平成19年度 ◆✿ 「大学と父母との連絡会」実施結果 ◆✿

平成19年度の「大学と父母との連絡会」は9月1日(土)から始まり、最終日の9月29日(土)東京・横浜地区までの間、全国23会場において開催されました。各会場の出席状況は下記のとおりで、各地区において評議員の方々には運営等にご協力いただきました。

✿ 会場別出席世帯数 (対象県以外からの出席者を含む)

開催地	開催日	会場名	出席世帯数
札幌	9月 8日(土)	札幌全日空ホテル	11
仙台	9月 2日(日)	ホテルJALシティ仙台	21
郡山	9月 1日(土)	郡山ワシントンホテル	13
宇都宮	9月 2日(日)	チサンホテル宇都宮	27
水戸	9月 8日(土)	三の丸ホテル	28
千葉	9月16日(日)	京成ホテルミラマーレ	18
さいたま	9月 8日(土)	浦和ロイヤルパインズホテル	28
東京	9月29日(土)	武蔵工業大学 世田谷キャンパス	607
横浜	9月29日(土)	武蔵工業大学 横浜キャンパス	229
高崎	9月 9日(日)	ホテルメトロポリタン高崎	13
新潟	9月 8日(土)	ホテルサンルート新潟	11
甲府	9月 1日(土)	ホテル談露館	29
長野	9月 1日(土)	ホテルJALシティ長野	13
富山	9月 9日(日)	名鉄トヤマホテル	11
金沢	9月 8日(土)	金沢都ホテル	7
三島	9月 8日(土)	三島グランドホテル	31
静岡	9月 9日(日)	シーグランデ清水ステーションホテル	41
浜松	9月 1日(土)	オークラアクトシティホテル浜松	21
名古屋	9月 2日(日)	ホテルアソシア名古屋	21
広島	9月 8日(土)	リーガロイヤルホテル広島	10
福岡	9月 2日(日)	ホテル日航福岡	24
鹿児島	9月 1日(土)	ブルーウェーブイン鹿児島	11
那覇	9月 1日(土)	ホテルロイヤルオリオン	6
合 計			1231

◆ 都道府県別出席世帯数

都道府県名	出席世帯数	前年度出席世帯数
北海道	13	8
青森	1	5
岩手	0	1
宮城	15	22
秋田	2	4
山形	2	4
福島	24	23
茨城	58	53
栃木	48	41
群馬	12	9
埼玉	77	80
千葉	65	64
東京	230	212
神奈川	391	352
新潟	14	18
富山	10	9
石川	9	9
福井	0	0
山梨	40	40
長野	20	16
岐阜	3	2
静岡	109	123
愛知	20	15
三重	4	4
滋賀	0	0
京都	0	0
大阪	0	1
兵庫	0	2
奈良	0	1
和歌山	1	0
鳥取	0	0
島根	2	2
岡山	0	1
広島	7	8
山口	1	0
徳島	3	3
香川	0	0
愛媛	2	2
高知	2	6
福岡	18	22
佐賀	0	3
長崎	3	3
熊本	3	1
大分	3	5
宮崎	4	3
鹿児島	9	8
沖縄	6	7
合 計	1231	1192